

編 集 後 記

「踏査」も今回で第9号を数えます。これまでの8号を見てみると、先輩方が各々の時代を転換期と捉え、進むべき方向を模索されていた様子が窺われます。

そして我々も、現在を探検部の一つの転機と受け止めています。世界地図を拡げてみても食指が動かない探検不毛の時代がやって来ているように感じられます。

しかし、初代OB小野氏の座談会での言葉「探検とは自分の心に描いた地図を塗りつぶしていくことである。」は、これからの方向性を深く暗示しているように思います。

探検部に夢と可能性を持った若者達が集う限り、心の中の白いキャンパスは、探検という絵の具で彩られ続けることでしょう。

最後に、本号を発行するにあたり、自投稿及び御協力くださいました関係諸氏に、心より感謝の意を表します。

古 家 秀 美

探検部・部報「踏査」第9号

昭和56年2月20日印刷

昭和56年3月1日発行

発行責任者 古 家 秀 美

編集責任者 古 家 秀 美

発 行 所 関 西 大 学 探 検 部

大阪府吹田市千里山

印 刷 所 ふじや印刷株式会社

大阪市都島区高倉町3丁目9-13

TEL 921-5946代